

4 勤労者福祉

～市内の企業で、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまち

<A 基本計画の目標>

勤労者が心身ともに健康で働き続けられるよう、福利厚生制度の充実に努めます。
 レイ・ウエル鎌倉の有効活用を図ります。
 技能奨励事業を進めます。
 勤労者の働く環境の向上をめざします。
 若年層や高齢層などの実態に合った雇用支援策を進めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	トレンド
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	23.3 %	18.1 %	25.1 %	19.4 %	19.6 %	↗

<C 目標達成に向けた22年度の実績と自己評価>

自己評価

【市民経済部】

<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>就職支援相談を毎月実施し、就職を希望する方々に対する適職や求職情報の探し方などについての相談を行い、50人の相談実績がありました。</p> <p>藤沢ハローワーク管内の自治体と連携し、企業30社と求職者を橋渡しする就職面接会を実施し、416人の参加がありました。</p>	◎
<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>平成18年度の指定管理者制度導入後は、一貫して利用者数の増加が続いていましたが、22年度は3月の震災の影響による停電や夜間に休館措置をとったこともあり、利用者数が前年度を下回る結果となりました。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【市民経済部】

<p>・国の事業の枠から外れる機会に、過去の流れにとらわれず、中小零細企業の就業者に対するケアを再構築する必要があるのではないか。メンタルケアの重要性など、役割が変わりつつある。</p>	⇒	<p>平成20年度に中小事業所に出向いての勤労者向け再就職支援セミナーの開催や、レイ・ウェル鎌倉におけるメンタルヘルス相談の実施など勤労者のニーズを常に捉えながら適切な事業を企画実施していきます。</p>
<p>・市民満足度の低さは勿論、サービスセンター会員の動静も入会者より退会者が上回るという事態を深刻に受け止めて新しい道を模索してほしい。そのような点からも評価の◎は適当とは言えないと考える。</p>		<p>会員数が伸び悩み、減少するという中で、従来以上に加入促進活動を充実させるとともに現在の会員向けのサービスを向上させることによる退会抑制にも取り組んでいきます。</p>
<p>・民間業者より安価なサービスが提供されるようになっており、市が提供する必要性は低下しつつある。</p>		<p>平成14年度に鎌倉市勤労者福祉サービスセンターが市の事業を継承し、現在はその支援を行っています。サービスセンターは民間のサービスとも競合しながら、市内中小企業の勤労者に良質なサービスを提供していると考えています。</p>
<p>・正社員雇用率は前回に引続き向上したと記述しているが、これについて行政が寄らなかったと思われる点について述べられたい。</p>		<p>就職を支援する個別相談の実施や神奈川県と連携しての就職セミナーの実施、藤沢ハローワーク管内自治体と連携した就職面接会の開催によって正社員への就職を支援しました。</p>

<E 22年度未達成事業の課題・問題点など>

【市民経済部】

<p>サービスセンター会員において新規会員を上回る退会者があります。不況による退会もあり加入促進努力だけでは会員数増に結びつけるのが困難です。</p> <p>レイ・ウェル鎌倉においては、立地上の交通不便を解消するための根本的な解決法を得ることが難しいという課題があります。</p>
<p>※未達成の理由<支障となった理由> サービスセンター会員の不況による退会者の増加 レイ・ウェル鎌倉の立地上の交通不便</p>

<F 今後の展開(取組方針)>

【市民経済部】

<p>鎌倉市勤労者福祉サービスセンターの会員数増に向けては、引き続き加入促進活動により新規会員の獲得に努めるとともに、既存会員の退会を抑制するための魅力あるサービス作りのための検討をサービスセンターとともに検討していきます。</p> <p>レイ・ウェル鎌倉の利用者の増に向けては、利用者アンケートなどから得られる利用者ニーズを的確にとらえて、繰り返し利用者を増やすとともに利用者間の口コミによる利用数の拡大を図っていきます。</p> <p>鎌倉市勤労者福祉サービスセンターでは、県内のサービスセンターと共同で事業に取り組むことにより単独では開催が難しい事業を実施しています。今後も共同事業を一層充実させるとともに、他のサービスセンターとの統合などによる広域化に取り組み、スケールメリットを活かした勤労者福祉事業の提供を図っていきます。</p>

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	H22年度 目標値	H27年度 目標値
レイ・ウェル鎌倉の 利用者数(+)	レイ・ウェル鎌倉のホール や会議室等の年間利用者 数の合計	53,536 人	58,056 人	60,987 人	62,781 人	58,479 人	75,000 人	100,000 人
正社員雇用率(+)	市民活動課で行っている 労働動態調査の結果、市 内事業者の雇用人数のう ち正社員の人数の割合	67.1 %	50.9 %	63.1 %	69.6 %	65.3 %	70 %	73 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	320,154千円	308,195千円	139,542千円					
	(国・県)	14,892千円	8,600千円	8,600千円					
	(負担金等)	190,835千円	190,379千円	30,169千円					
	(一般財源)	114,427千円	109,216千円	100,773千円					
	人員配置数	4.0人	3.0人	3.0人					
	人件費 (B)	35,707千円	26,693千円	25,855千円					
	総事業費(A+B)	355,861千円	334,888千円	165,397千円					
	対前年比		94.1%	49.4%					

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・レイウエルの運営に関して、民間機関に委託しながらも丸投げにせずモニタリングを行っていることは評価できる。
- ・勤労者福祉事業の取り組みを広域化し、スケールメリットを活かそうとしていることを評価する。
- ・行政センターには「教養センター 夏期講座募集案内」、「就職の壁 突破シリーズ 人気講師によるセミナーとカウンセリング」等の案内誌が配布されており、啓発活動の一端が伺える。



課題・提言

- ・レイウエルの立地特性が問題となっているが、立地条件が変われば好転するか。好転するのであれば、現在値に固執する必要はないのではないか。
- ・就労支援は重要であるが、現在の形ではハローワークに任せる方がよいのではないか。
- ・満足度が低く、目標への進捗も悪い。評価内容からは熱意が伝わってこない。国や県が行っている事業の情報展開をしているだけに見える。
- ・勤労者福祉というコンセプトが、時代の流れの中で、本当に現状の形で市民の生活に十分貢献しているかといった根源的な有り方について、今後の大きな施策を見通すために大きな見直しが必要なのではないだろうか。本当に勤労者はどのような福祉政策を必要としているのかといった視点からの吟味が課題であろう。